

## 救急医学講座選択実習報告

### 6年Aさん

自分が救急講座をこの一カ月間のスーパーポリクリで選択させていただいた理由は、5年生のポリクリの時に実習させていただいた科の中で一番厳しく指導していただけた科であったからでした。自分自身、あまり器用なほうではなく、頭の回転もそんなに速いほうでもない、何か自信になるものを見つけない、そんな気持ちで選択させていただきました。

ポリクリ初日、僕は案の状、指導医の先生に激怒されることとなりました。理由は、僕がラインの取り方が分からないのに、患者に針を刺したというものでした。その先生は後に医療行為をしてもいい条件は2つあると説明して下さいました。一つは成功の条件を理解していること、もう一つの条件は失敗した場合に次の治療法を分かっていることと。言われてみたら当たり前のことですが自分はそんなことも全然分かってないのかと驚愕しました。今振り返ってみると、自分はこんなことも分かってなかったのかと思うことはたくさんありました。例えば、医療行為は患者と医師の間だけで成り立っているのではなく、社会を介在させているものであるといったことから、術野からは目を切らないといった手技的なものまで分からないことは幅広くありました。そういった、学校のテストにでてくるような医療知識だけでなく様々なことを研修医になる前に教えていただけたことは本当によかったと思います。

救急講座は、命の最前線で仕事をする場所です。そのため、医療行為の選択、実行にはどこの科よりもシビアであると思います。そのシビアな場所で実習させていただいたことは自分にとって非常に貴重な経験であったと思います。また研修医になるまでの最後の1年間で自分に今、なにが足りないかということが分かった気がします。

最後になりますが、この一ヶ月間、自分たちポリクリを指導して下さった太田先生、三島先生をはじめとした処先生方、秘書さん、スタッフの皆さん、採血やライン取りの失敗で何度もベッドを血で汚したり、多々ご迷惑をおかけしたとは思いますが、本当にありがとうございました。